

議会運営委員会行政視察報告

◎今年のキーワードは、『議会のICT化』です！

藤枝市議会は平成25年度が第15期の4年目、最終年度を迎え議会基本条例制定に向け協議を重ねています。議会運営委員会として今まであまり検討されてこなかった議会のICT^{※(1)}(Information & Communication Technology)化をメインテーマに、その先進市議会である神奈川県逗子市議会と千葉県柏市議会にお邪魔し、その取り組みについて視察先の議員のみなさんから直接お話を伺い、意見交換をまいりました。

【視 察 日】 平成25年7月23日(火)～24日(水)

【視 察 委 員】 舘 正義委員長、渡辺 恭男副委員長、大石 信生委員、
天野 正孝委員、岡村 好男委員、杉山 猛志委員、
遠藤 孝委員、植田 裕明委員、百瀬 潔委員、
水野 明議長、臼井 郁夫副議長

【視 察 先】 神奈川県逗子市、千葉県柏市

【調 査 事 項】 議会活性化への取り組みについて

(1)逗子市議会・・・ ①ICTの活用としてのタブレット端末^{※(2)}の導入について

(2)柏市議会・・・ ①ICTの活用について

②議員提案による条例制定について

■ ICTの活用としてのタブレット端末の導入について（逗子市） ■



逗子市議会 塔本議長からの御挨拶



藤枝市議会 館議運委員長からの挨拶

逗子市議会のタブレットの導入については、議員の発議により、もっと効果的に議会運営ができないかとの提案から始まった。目的はもちろんペーパーレス化、環境負荷軽減、会議の効率化である。タブレット端末を使い、クラウドを用いて会議を行う。ビューアアプリは、東京インタープレイ株の「SideBooks」を使用し、クラウド会議システムは、「BackShelf」を導入している。導入理由は、見やすさ、扱いやすさ、セキュリティ、価格面を総合的に判断したとのこと。クラウドを使い、完全ペーパーレスの会議は、おそらく全国初の試みではないかと思われる。クラウドを使うことで、サーバーなどの機器を手元に置かなくて済むため、メンテナンスや保守などランニングコストを抑えることができる。「BackShelf」からのプリントアウトやダウンロードは、原則できないようだが方法はあるとのこと。期待される効果としては、資料がすべて電子データになるのでプリントアウトする必要がなくなる。また、差し替えが発生しても、サーバー内のデータを差し替えるのみでよい。コスト面では、タブレット端末とクラ

ウドを用いた会議システムを併せて226万円で、予想される紙代のコスト削減は、年間約50万円程度だが資料の作成・プリントアウト・差し替えなどにかかる労務費を考えると、何百万単位での削減効果が見込まれるとの判断だ。

今後の予定は平成25年第2回定例会(6月)より、タブレット端末の本格使用を開始する。第2回定例会、第3回定例会は、タブレット端末、紙ベースでの併用をして、第4回定例会以降は、完全ペーパーレスに移行する。

検討課題として、タブレットがうまく扱えない議員への対応がある。これについては任意の部会(仮称)逗子市議会ICT会議を発足させ、その中で使い方の協議などを行っていくとのこと。他には庁内のルール化・運用について、市長部局の会議システムの利用・タブレットの利用について、その他情報機器の利用についてなどがあげられていた。

導入までの経過は以下のとおり、

平成24年5月9日 議会活性化推進協議会にてタブレット端末の使用が検討課題として提案された。

平成24年9月25日 議会活性化推進協議会にてタブレット端末の実証実験を行うことが決定。

平成24年9月26日 議会運営委員会にてタブレット端末の実証実験を行うことが決定。

平成24年第4回定例会で、2社から9台のタブレットを借り、実証実験を行う。

平成24年12月17日 議会運営委員会にて平成25年度に導入することが決定。

平成25年3月15日 本会議にてタブレット端末本体とクラウドを用いた会議システムのための2,267,000円の予算が議決された。



実際に使用しているiPadを操作させていただきました



■ ICTの活用について（柏市） ■



議長席の後方に大きなスクリーン



議場の2カ所の入口の上には65インチのディスプレイ

柏市は、従来から積極的に電子自治体推進の取り組みを行っており、議会においても例外ではなく、この議場設備の視察に全国から多くの市議会が訪れている。

議場に入って、まず議長席後方の大きなスクリーンが目飛び込んでくる。そこに映し出されるものは中継映像であったり、議員や執行部が質問や説明に使用する資料であったり、選挙の投票結果や各議員の賛否の様子であったり様々である。

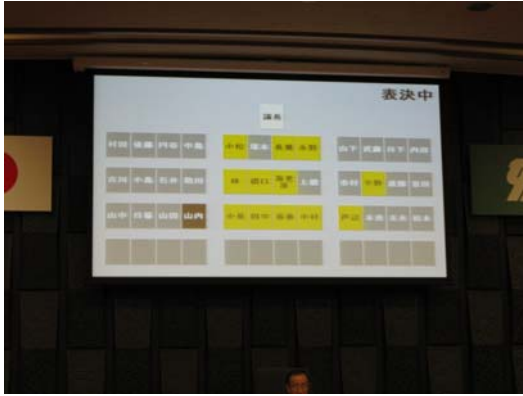
議員のためばかりでなく、傍聴者のための設備と言ってもよい。



マイクの右にある3つのボタンで賛否を表す



投票結果がスクリーンに表示される



議決結果、スクリーンで各議員の賛否がわかる



ここに資料を置くと、スクリーンに映し出される

■ 議員提案による条例制定について（柏市） ■

過去に、地方議会部門マニフェスト大賞の優秀成果賞に輝いた「超党派の議員提案による『命を守る2条例』の制定」について、当時条例づくりを呼びかけた古川議員に説明をしていただきました。条例を制定することになった経緯、ご苦労された点などを伺い、意見交換を行う中でアドバイスもいただいた。この超党派については、前段のスクリーンの導入が関係あるようで、スクリーンの活用方法について当時の議長が1期目の議員に検討を依頼した。これを受け超党派の議員が勉強会を立ち上げ、検討し最終的に提言をまとめ上げた。そこでの議論を通じ、新しい条例制定への素地が培われたということだった。制定にあたっては、スタッフの強化や執行部との調整・協力が必要であるとか、制定後もそれで終わることなく、毎年その取り組み状況の報告を義務付けるなど、非常に参考になった。



館委員長の挨拶



柏市議会古川議員による御説明

■ 逗子市議会・柏市議会の視察を終えて

初日、逗子市議会を視察し、議員から説明していただき、また議員の生の声を伺う中で意見交換をした感想について、塔本議長の御挨拶の中にもあったが、ご自身がタブレット端末の操作について大分不安があったようだ。こういった新しいことに取り組もうとするとき、タブレット端末を使える議員はそれを使い、使えないからといって議案や資料を紙で用意させるのではだめ。議員全員が使いこなさなければICT化の意味がない。操作等の説明も5回のうち1回は事務局から受けたが、あと残りは同僚議員から教えていただいたと、仲間で支えあい和が広がったとおっしゃっていた。藤枝市議会がICT化を推進するにあたり、非常に参考になる話が多かった。

翌日お邪魔した柏市議会の議場内の設備については、全国の多くの議会が視察にこられるだけのことはあり、多くの議場を拝見してきた我々から見ても、これほどの先進的な設備の議会は初めてであった。特に議長席の後方にあるスクリーンで、

映すものは、議会中継、選挙結果、議席が色分け表示された議員の賛否結果、議員や執行部の質問・説明用の資料など多岐にわたり、初めて傍聴する方にとっても非常に見やすく、わかりやすくなっている。

また、柏市議会の改革への取り組みとして、ICT化の推進とともに、すでに何本も条例を制定している点あげられる。議会基本条例の制定はないものの、改革のキーワードともいえる議員間の自由討議を開始したり、市長等へ反問権を付与したりと、基本条例などなくても議会改革を着実に推進している姿がそこにあった。命を守る2条例など、この政策条例づくりを呼びかけた古川議員自らの思いや苦労話を伺い、議員提案による条例制定の難しさを改めて実感もし、制定への思いを新たにしたところである。

【用語解説 ※()】

- (1) ICT:情報通信技術。
- (2) タブレット端末:アップル社の iPad に代表される薄型かつ携帯型の情報機器。
液晶画面に指で触れて操作するが、指先で押すだけでなく、画面をなでて次のページを表示したり、2本の指で縮小拡大の操作ができる。
- (3) クラウド(コンピューティング):クラウドは「雲」のこと。インターネットは現在、非常に複雑で巨大な通信網になっているため、漠然と雲の絵で表現されることが多いことから、クラウド・コンピューティングと呼ばれる。

- (4) ビューアアプリ: コンピューターで画像などを見るためのソフトのこと。
- (5) SideBooks: iPad などのタブレット端末から BackShelf の文書を閲覧するために使用するビューアアプリのこと。
- (6) BackShelf: タブレットで文書共有をするための本棚と呼べるもの。サーバーで管理する本棚を共有することで、全ユーザーが常に最新の共有文書を見ることができ、高いセキュリティ性を確保している。
- (7) サーバー: インターネットや LAN(ローカルエリア・ネットワーク)などのコンピューター・ネットワーク上で、主にデータの蓄積やネットワークの管理などのサービスを提供するコンピューター。
- (8) ダウンロード: インターネットなどで、ソフトやデータを転送すること。